

# 伊万里労基署便り

令和8年4月

伊万里労働基準監督署

伊万里労働基準監督署管内では、令和7年に発生した休業4日以上<sup>1</sup>の労働災害は **117件** で、前の年より **19件減少** しました。災害が減少したことは良い傾向ですが、依然として注意が必要な点が多く見られます。

※集計値は令和8年1月時点。

## 1. 災害が多い業種について

災害が最も多かったのは **製造業(45件)** で、全体の約4割を占めています。

次いで、**保健衛生業(21件)**、**商業(19件)**、**接客娯楽業(9件)**、**建設業(6件)**と続いています。このように、工場だけではなく、介護施設や小売店など、私たちの身近な職場でも多くの災害が起きています。

業種別の割合は、

①製造業	45件	(38%)
②保健衛生業	21件	(18%)
③商業	19件	(16%)
④接客娯楽業	9件	(8%)
⑤建設業	6件	(5%)

## 2. どのような労働災害が多いのか

発生した災害の内容を見ると、

- **転倒(つまづく・滑る等)**:29件
- **無理な動作(重い物を持つ・姿勢が悪い等)**:24件
- **墜落・転落(高所から落ちる等)**:18件

と、「ちょっとした動作」や「動き方のクセ」から起きる労働災害が半分以上を占めています。

特に転倒は、床の状態や歩行中の不注意など、どこでも起きやすいため注意が必要です。

労働災害の型別では

①転倒	29件	(25%)
②動作の反動・無理な動作	24件	(21%)
③墜落・転落	18件	(15%)
④飛来・落下	12件	(10%)
⑤挟まれ・巻き込まれ	10件	(9%)

## 3. 災害が起きやすい職場環境

労働災害の原因となった場所や物を調べると、**床や通路、階段などの“建物・構造物”が最も多く(37件)** なっています。

つまり、職場の「環境そのもの」が労働災害のきっかけとなるケースが多いため、日頃からの点検や整理整頓が重要です。

起因物別では

①仮設物、建築物、構築物等	37件	(32%)
②その他	31件	(26%)
③その他の装置等	17件	(15%)
④物上げ装置、運搬機械	10件	(9%)
⑤動力機械	10件	(9%)

#### 4. 高齢労働者に多発する傾向

被災した人の **58%**が **50 歳以上**でした。

年齢が上がるにつれて、

- つまづきやすい
- 腰を痛めやすい
- 反応が遅れやすい

被災者の年齢別では

①50 歳～59 歳	30 件 (26%)
②60 歳～69 歳	25 件 (21%)
③40 歳～49 歳	19 件 (16%)
④20 歳～29 歳	16 件 (14%)
⑤70 歳～	13 件 (11%)
⑥30 歳～39 歳	13 件 (11%)

といった理由から、転倒や無理な動作による災害が増える傾向があります。

今後は、高齢者に配慮した環境づくりや作業方法の見直しがさらに求められます。

#### 5. 中小規模の事業場での発生が多い

労働者が **50 人未満の事業場で全体の 66%** が発生しており、安全管理者を置く義務がない小規模事業場では、安全の仕組みが整いにくいことが背景にあります。

小さい職場ほど、「安全はみんなで作る」意識が大切になります。

事業場規模別では

①10 人～29 人	38 件 (32%)
②～9 人	23 件 (20%)
③100 人～299 人	18 件 (15%)
④50 人～99 人	18 件 (15%)
⑤30 人～49 人	16 件 (14%)
⑥300 人～	4 件 (3%)

#### 6. まとめ

令和 7 年の災害件数は減少したものの、

- 転倒・無理な動作などの“**行動による災害**”が中心
- 高齢の労働者の割合が高い
- 床や通路など、身近な環境が原因になりやすい
- 小規模事業場が発生しやすい

という特徴が明らかになりました。

これらを踏まえ、伊万里労働基準監督署は、今後も職場の環境整備や正しい作業方法の周知を進め、誰もが安全に働ける環境づくりを目指します。